

こうきょうきょく
第九交響曲につながる博愛の心
まつえとよひさ
～ 松江豊寿 ～



松江豊寿所長

2012年(平成24年)6月3日、徳島県鳴門市の文化会館で第31回ベートーベン第九交響曲演奏会が開かれ全国44団体604名が参加し、「アジア初演の地」で歓喜の歌声を響かせた。約2時間の演奏が終わると約1300人の聴衆から惜しめない拍手が送られた。

(6月4日徳島新聞)

この「アジア初演の地」のいわれは約100年前にさかのぼる。1914年(大正3年)から第一次世界大戦が始まった。日本軍は中国のドイツ租借地である青島を攻撃しドイツ軍4600余名を俘虜とした。そして、その俘虜たちは松山・徳島など全国12ヶ所に収容されたのだが、1899年(明治32年)に結んだ赤十字のハーグ条約により、その身分は保障されることになっていた。

しかし、俘虜の脱走事件などがあり、ほとんどの収容所は粗末な施設で、厳しい規則のもと、俘虜を無理に抑えつけるような扱いをしていた。

ただ1ヶ所だけ、人道的な対応をしたのが徳島のちの板東俘虜収容所である。

その所長である松江豊寿大佐は、1917年(大正6年4月6日)板東俘虜収容所開設に当たり、953名の俘虜に対して次のように訓話した。

「私がこの収容所長の松江大佐である。みんなは祖国を遠く離れ、孤立した青島において絶望的な状況の中にありながら最後までよく戦った。しかし、時の利あらずついに日本軍の俘虜



大正8年頃の板東俘虜収容所全景模型

となった。でも、みんなの愛国の精神と勇氣はいささかもゆるがない。その名誉を大切にしたい。^{めいよ}

次にこの収容所には、みんなが守らなければならない規則がある。この規則は、秩序を守^{ちつじよ}るために、絶対に必要なものであり、守ってもらいたい。みんなに言うておく。私はみんなを遇するに、博愛の精神をたて糸に、武士の情^{なさけ}をよこ糸にしたいと考えている。

みんなが見たように板東の地は、のどかで美しい自然に恵まれている。この自然と一体とな^{かえ}って生活してほしい。そして、いつの日か全員そろって祖国に還られんことを希望する。」

そして、その訓話通り松江所長は、警備兵たち^{けいびへい}にいかなる暴力も許さず、人道的に接するよう求めた。また、できるだけ俘虜たちの自由行動を許した。その上俘虜たちが身につけている技能を存分に発揮するよう地域の人たちとの交流を積極的に進めていった。

農学士であったシュミットは、俘虜共同農園で当時その地方で栽培されていないトマト・キャベツ・玉ねぎなど 10 数種類の野菜の育て方を近くの農家の人たちに教えた。また、パン・ハム・ソーセージ・ヨーグルトなどの食品加工技術をそれぞれの職人が普及させていった。

土木工事の職人は収容所と板東をつなぐ地点にアーチ構造の石造りの丈夫な「ドイツ橋」をつくった。

植物学者のポール・プラトケは、近くの板東小学校で植物標本の作り方を教えた。

さらに、サッカー・器械体操・レスリングなどのスポーツを近くの中学校で指導した。

また、エンゲル少尉^{しょうい}を中心とする音楽隊員は近くのへんろ宿で、エンゲル音楽教室を開いた。最初は近所の若者数名であったが次第に 10 数名に増えていった。

その上、遠く徳島市の方まで行って指導をするようになった。その際、松江大佐自身が引率し、通訳をすることもあった。



ドイツ橋

そして、1918年(大正7年)6月1日、俘虜たちとエンゲル少尉が養成した日本の若者との徳島オーケストラが、ベートーベンの第九交響曲を演奏した。

ベートーベン生涯最後の不朽の名作第九交響曲は、ドイツの詩人シラー作の「歓喜に寄す」に曲をつけたものである。このシラーの詩には『すべての人類は兄弟となる』という人類愛が歌い上げられている。

祖国から遠く離れた日本の板東の地で、この曲を聴いた俘虜たちは、万感胸にせまり、あふれる涙が頬に流れた。

その時のひとりの俘虜のことばが今に伝わっている。「私は知っていました。この望郷のシンフォニーの生みの親は、松江所長その人だったのです。」

この第九交響曲に込められた松江豊寿の思いは徳島の人たちに受け継がれていった。



第30回ベートーヴェン第九交響曲演奏会 鳴門市文化会館にて

1982年(昭和57年)、鳴門市文化会館の落成を記念して第1回ベートーヴェン第九交響曲演奏会が開催された。以後、アジア初演の6月1日を記念して、毎年6月第1日曜日に開かれ年々

盛会となり、今日に至っている。

今年（平成 24 年）の第九演奏会のパンフレットの表紙に次のことばが書かれている。

「第九アジア初演の地、鳴門に今年も同胞が集う。

自由、不屈の精神、人類愛を描いた至高の交響曲を奏でるために。」

☆ ことばの説明

- ・ 租借地 — ある国が他の国から借りた土地
- ・ 俘虜 — 敵軍に捕らえられた者・捕虜と同じ意味
- ・ ハーグ条約 — 国際赤十字は 1899 年オランダのハーグに、日本を含む世界 26 ヶ国が集まり、第 1 回世界平和会議を開き、「捕虜の保護を目的とした 17 条のきまり」などを決めた。
- ・ 板東 — 大正 6 年当時、徳島県板野郡板東町、現在は鳴門市
- ・ バルトの楽園 — 2006 年 6 月に公開された日本の映画作品名。この映画は板東俘虜収容所のようなすを描いたものである。

☆参考に使っていただいた本

「二つの山河」 中村彰彦 著

「板東俘虜収容所物語」 棟田 博 著

☆ お世話になった方

徳島県青少年赤十字賛助奉仕団 委員長 高見 泰生

鳴門市ドイツ館

NPO 法人 鳴門「第九」を歌う会 事務局